

『国内外16大学と、ものづくり現場の高周波アナログ設計を支援する研究会を発足』

電気通信大学は、国内外16大学の協力を得て、ものづくり現場におけるアンテナ、高速回路、EMC設計を支援する研究会を10月1日に発足させることにいたしました。

研究会の名前は「ギガビット研究会」（ギガビット時代におけるアンテナ・高速回路・EMC設計研究会）。

研究会では、企業の製品設計現場で不足しているアンテナ、高速回路、EMC設計等での高周波アナログ技術者の育成、実用的な設計ガイドラインの提供、および企業の個別の課題に対してコンサルテーションを実施します。そのために国内外の大学の研究者と企業の実務経験者が集まって準備を行なってきましたが、このたび会員募集を開始いたします。

近年デジタル機器の高機能化が急速に進み、身近な製品にも、HDMI、eSATA、USB3.0といった高速大容量データ転送規格が使われるようになりました。デジタル技術とともに、アンテナ、高速回路、EMC設計などの高周波アナログ技術が、製品性能や競争力を左右する重要な鍵となる時代になってきました。試作期間の増大や機器の不完全動作といった事態を避けるためにも、開発段階での的確な設計技術が必要になっています。しかし企業の製品設計現場では高周波アナログ技術者が不足しており、それら技術者の育成や、現場で本当に役に立つ設計ガイドラインのニーズが高まっています。この問題は、我が国のエレクトロニクスや通信、自動車、医療、建築など様々な業界において喫緊な課題です。

研究会は、大学院レベルの講義・演習を行い、製品設計現場で将来指導的立場となり得るアナログ技術者の育成を行う「第一線技術者養成講座」と、国内外の最新の研究成果や規格の動向の情報、設計ガイドラインと関連するソフトウェアの提供を行う「研究コンソーシアム」の2本立てで構成されます。また特定の会員企業向けに、企業の個別の課題解決のためのコンサルテーションを実施し、コンサルテーションの範囲を超える課題に対しては、共同研究、受託研究も実施します。

研究会は平成23年10月1日発足し、10月7日に活動内容と今後の計画の紹介を兼ねた第1回シンポジウムを電気通信大学で開催されます。さらに、第一線技術者養成講座と設計ガイドラインセミナーなどが引き続き開催される予定です。

お問合せ先：

国立大学法人 電気通信大学 産学官連携センター ギガビット研究会事務局  
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

TEL：042-443-5848、 e-mail：gigabit@sangaku.uec.ac.jp

